

福祉都市委員会報告資料

ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）再整備の
検討状況について

令和 7 年12月
住宅都市みどり局

ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）再整備の検討状況について



- ウォーターフロント地区において、港湾の人流機能やMICE機能などの再整備を取り巻く状況が変化しており、今回、検討状況等について報告するもの

1. これまでの取り組み

- ウォーターフロント地区においては、MICE施設や、国内外の定期旅客船、クルーズ船などが寄港するターミナルが集積するとともに、都心部の貴重な海辺空間を有するなどの地区の特性を活かし、市民や来街者が楽しめる魅力あるまちづくりに取り組んでおり、これまで、「ウォーターフロント地区再整備構想」の策定や、基本スキーム素案などを取りまとめるとともに、マリニメッセ福岡B館などの施設整備や交通対策を進めてきた

【ウォーターフロント地区再整備構想（H28.3）】



【まちづくりの基本スキーム素案（H31.2）】



【参考：これまでの主な経緯】

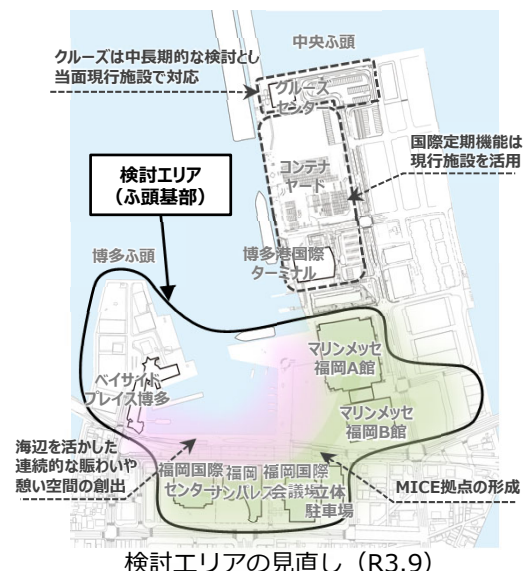
平成28年 3月	「ウォーターフロント地区再整備構想」策定
平成31年 2月	議会報告（基本スキーム素案の概要）
平成31年 2月～	民間サウンディングの実施
令和元年10月	議会報告（民間サウンディングの結果）
令和 2年～	新型コロナウイルス感染症の感染拡大
令和 3年 9月	議会報告（検討エリアの見直し）



マリニメッセ福岡B館
(令和3年4月供用)



中央ふ頭西側岸壁の延伸
(平成30年9月供用)



2. 検討状況

(1) 現状について

- 人流機能については、港湾空港局、M I C E 機能については、経済観光文化局において検討を行っているところであり、ウォーターフロント地区まちづくりの検討にあたっては、関係局とも連携しながら進めている

1) 人流機能

①現状・主な課題

国際定期機能	<ul style="list-style-type: none">・JR九州高速船株式会社の船舶事業撤退等により、博多港国際ターミナルの施設の一部分が未利用となるとともに、ターミナルは、築32年が経過し、設備が老朽化している・クルーズ客が寄港地観光をするためのタクシーや観光バス、及びクルーズ客等の歩行者と、コンテナヤードに出入りする物流車両との輻輳が生じており、その課題解消のため、現行の港湾計画のとおり、国際定期機能は中央ふ頭東側への移転が必要
クルーズ機能	<ul style="list-style-type: none">・クルーズの寄港回数は、令和6年が204回であり、令和7年は212回を見込むなど堅調に推移・日本船社の配船体制の拡充などを背景に、より多様なクルーズ船が寄港・博多港を起終点とするクルーズでは、クルーズセンターにおいて荷物の預入れ・受渡し対応のためのスペースの不足や、乗船手続き待ちのクルーズ客が集中する時間帯には、屋外での待機が生じている
国内定期機能	<ul style="list-style-type: none">・岸壁背後ヤードが狭いため、トラック等による荷役作業が輻輳していることや、博多ふ頭第2ターミナル及び上屋は、築50年が経過し、老朽化している

<国際ターミナルの未利用状況>

チェックインカウンターの状況



※チェックインカウンターとしては未利用であるが、奥のスペースを事務所として利用

<物流との輻輳>

タクシーと物流車両

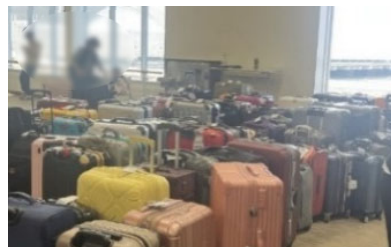


歩行者と物流車両



<クルーズセンターのスペース不足>

荷物の預入れ状況



乗船手続き待ちの状況



<国内定期の荷役作業>

荷役作業の輻輳状況



②今後の検討

人流機能の課題や、国際定期機能の配置等を踏まえ、以下のとおり検討を進める

国際定期機能	<ul style="list-style-type: none">・クルーズ客等の安全確保の観点から、早期移転に向けた取組みを進めていく・既存の国際ターミナルについては、人流機能に係る検討などの中で有効活用を検討する
クルーズ機能	<ul style="list-style-type: none">・クルーズ動向を注視していくとともに、船社からの寄港要請を踏まえながら、ターミナルや関連施設について、需要に応じた規模等の検討を行っていく
国内定期機能	<ul style="list-style-type: none">・博多ふ頭内での現地建替や他地区への移転について、詳細に検討していく

<その他（防災機能の検討）>

- ・港湾計画に位置づけられている中央ふ頭先端部の耐震強化岸壁（緊急物資輸送用）と背後が未整備の状況
- ・大規模地震発生時の支援物資輸送の拠点など、耐震強化岸壁及び背後を活用した防災機能のあり方について、令和7年10月に県が発表した最新の地震被害想定や他都市の事例も踏まえ検討を行う

③機能配置のイメージ



国際定期機能

- ・旅客ターミナル
- ・交通広場
- ・上屋
- ・コンテナヤード など

クルーズ機能

- ・旅客ターミナル
- ・交通広場
- ・観光バス待機場 など

国内定期機能

- ・旅客ターミナル
- ・交通広場
- ・上屋
- ・野積場 など

2) M I C E 機能

①現状・主な課題

M I C E 機能

- ・ウォーターフロント地区における令和6年度のM I C Eの開催状況については、来場者数は概ねコロナ禍前の水準まで戻るなど順調に回復
- ・**展示会**については、令和3年4月にマリンメッセ福岡B館が開館して以降、**A館・B館を併用する既存催事の規模拡大や新規催事など、これまでにない多様な催事も行われている**
- ・また、コンサートの需要も高まってきており、**特に大型のコンサートが増加している**
- ・福岡サンパレスや福岡国際センター（ともに築44年経過）は、**老朽化がみられることや、施設が時代の変化に対応できていないため、快適な利用や効率的な利用が難しい状況も見受けられる**

<施設の老朽化>

屋上防水等の経年劣化（福岡サンパレス）



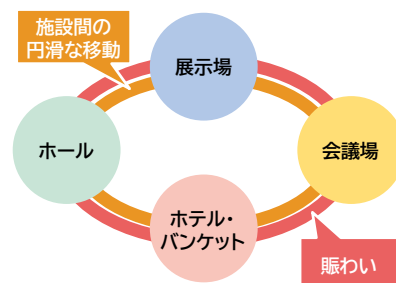
<設営や撤去が非効率>

搬出入口の高さが不足（福岡国際センター）



②今後の検討

M I C E施設の老朽化状況について詳細な調査を進めており、施設の老朽化状況や時代の変化に対応できていない部分、M I C E需要の動向などを整理したうえで、関連施設が一体的・機能的に配置された拠点の形成に向けて、更なるM I C E機能強化に係る検討を進めていく



<MICE拠点の形成の概念>

(2) まちづくりの検討の方向性

再整備を取り巻く状況の変化や課題等に対応し、地区の特性を活かしたまちづくりを進めることが重要なため、以下のとおり検討に取り組んでいく

○ウォーターフロント地区再整備については、都心部の貴重な海辺空間や、陸・海・空の広域交通拠点の近接性を活かし、人流機能やMICE機能などの充実を図るとともに、市民や来街者が楽しめる魅力あるまちづくりに向けて、人流機能配置の方向性や、回復傾向にあるMICEやクルーズの状況等を踏まえ、**ウォーターフロント地区におけるまちづくりの将来像を検討**していく

○交通対策は、マイカー利用を減らすために公共交通への転換を促す「公共交通の利便性向上」や、交通混雑を緩和するための「自動車交通の円滑化」を基本的な考え方として、**まちづくりの将来像に応じた必要な交通対策を検討**していく

(3) 今後の検討内容

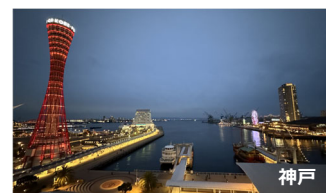
人流機能やMICE機能の充実とあわせ、市民など多くの人々で賑わい、憩う海辺空間の創出に向けて、クルーズ、MICE、海辺空間などを活かしたウォーターフロント地区の将来像（土地利用・交通の方針等）を検討していく

【ウォーターフロント地区の現況】



【将来像イメージ】

＜市民など多くの人々で賑わい、憩う海辺空間＞



＜クルーズターミナルに隣接する商業施設・ホテル＞



＜機能的・一体的に配置されたMICE拠点の形成＞



3. 今後の進め方

○ウォーターフロント地区再整備については、引き続き、港湾の人流機能やMICE機能に係る検討を進めるとともに、民間ヒアリング等を行いながら、まちづくりの将来像を検討していく

○また、交通対策についても、まちづくりとあわせて検討していく